

令和8年度

病害虫発生予察情報

第15号

8月月報

北海道病害虫防除所 令和8年(2026年)9月24日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況札幌管区気象台発表北海道地方気象速報

－高気圧に覆われやすく、かなりの多照とかなりの少雨。－

8月は、高気圧に覆われやすく、低気圧や前線の影響を受けにくかった。このため晴れた日が多く、北海道地方の日照時間はかなり多く、降水量はかなり少なかった。特に日本海側の月日照時間の平年比は、1946年の統計開始以降、大きい方から第2位の記録となった。また、偏西風が平年より北を流れ、暖かい空気に覆われやすかったため、気温は高かった。

上旬：高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。このため北海道地方の日照時間はかなり多く、降水量は少なかった。旬日照時間の平年比は、1961年の統計開始以降、大きい方から第1位の記録となった。

中旬：千島の東に位置する高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。このため北海道地方の日照時間はかなり多く、降水量は少なかった。暖かい空気に覆われやすく、また暖かい空気が流れ込む日も多かったため、気温はかなり高かった。

下旬：24日から28日にかけて、低気圧や前線が北海道付近を通過して暖かく湿った空気が流れ込み、28日には釧路地方で線状降水帯が発生するなど、大雨となった日が多かった。このため、北海道地方の降水量は多かった。一方で、高気圧に覆われて晴れた日も多く、日照時間は多かった。

気候表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%))を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22 地点平均	+1.4	高	59	か少	150	か多
日本海側10 地点平均	+1.3	高	59	少	154	か多
オホーツク海側4 地点平均	+1.5	高	53	少	157	か多
太平洋側8 地点平均	+1.4	高	63	少	142	か多

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。
各階級の幅は、平年値の作成期間(1991～2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

Ⅱ. 病虫害発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生量 並

予察田における葉いもちの発生量は、いずれの地点においても平年並であった。

一般田における8月3半旬の巡回調査では、発生は認められなかった。

予察田における水稻の葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	25.0	22.8	26.0	26.5	25.0	28.7	10
比布町	ななつぼし	48.0	41.5	34.0	45.9	43.0	44.8	10
北斗市	きらら397	22.0	24.2	22.0	25.6	22.0	25.8	10
	ななつぼし	25.0	－	25.0	－	25.0	－	－

注)各予察田の窒素施肥量は慣行栽培の5割増

注) — : 平年値なし

一般田における水稻の葉いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			8月3半旬					8月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	6	0	0	渡島	本所	1	0	0
	南東部	2	0	0	檜山	本所	2	0	0
	南西部	4	0	0		北部	2	0	0
	中空知	4	0	0	上川	本所	7	0	0.1
	北空知	6	0	0		富良野	3	0	0
石狩	本所	2	0	0		大雪	3	0	0
	北部	7	0	0		士別	2	0	0
後志	本所	4	0	0	名寄	3	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	5	0	0
日高	西部	2	0	0		南留萌	2	0	0

いもち病（穂いもち・節いもち） 発生期 やや早 発生量 並

予察田における枝梗いもちの初発期は、岩見沢市及び比布町で平年並、北斗市で平年よりやや早かった。

首いもちの初発期は、岩見沢市及び比布町で平年より早く、北斗市で平年よりやや早かった。節いもちの初発期は、岩見沢市で平年並、比布町及び北斗市では平年よりやや早かった。

枝梗いもちの発生量は、岩見沢市及び比布町では平年並、北斗市では平年より多かった。首いもちの発生量は、岩見沢市で平年よりやや少なく、比布町で平年並、北斗市では平年より少なかった。節いもちの発生量は、岩見沢市で平年より少なく、比布町では平年並、北斗市では平年よりやや少なかった。

一般田における8月6半旬の巡回調査では、穂いもちの発生は認められなかった。

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの初発期

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		枝梗いもち		首いもち				
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	8月7日	8月9日	8月5日	8月14日	8月18日	8月19日	10
比布町	ななつぼし	8月3日	8月5日	8月3日	8月9日	8月8日	8月11日	10
北斗市	きらら397	8月2日	8月5日	8月4日	8月8日	8月10日	8月15日	10
	ななつぼし	8月2日	－	8月7日	－	8月10日	－	－

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注)－:平年値なし

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病莖率(%)		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	21.1	22.9	5.3	9.5	2.0	12.6	10
比布町	ななつぼし	27.6	22.2	18.8	21.1	12.4	15.3	10
北斗市	きらら397	43.2	25.0	12.4	34.0	4.4	8.5	10
	ななつぼし	46.4	－	34.4	－	23.2	－	－

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増。

注)－:平年値なし

一般田における水稻の穂いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病穂率(%)	
			8月6半旬	
			本年	前年
空知	本所	6	0	0
	南東部	2	0	0
	南西部	4	0	0
	中空知	4	0	0
	北空知	6	0	0
石狩	本所	2	0	0
	北部	7	0	0
後志	本所	4	0	0
胆振	東胆振	4	0	0
日高	西部	2	0	0

普及センター		地点数	発病穂率(%)	
			8月6半旬	
			本年	前年
渡島	本所	1	0	0
檜山	本所	2	0	0
	北部	2	0	0
上川	本所	7	0	0
	富良野	3	0	0
	大雪	3	0	0
	士別	2	0	0
	名寄	3	0	0
留萌	本所	5	0	0
	南留萌	2	0	0

2. 紋枯病 発生期 早 発生量 やや多

予察田における初発期は、岩見沢市で平年より早く、北斗市では平年よりやや早かった。

発生量は、岩見沢市で平年並、北斗市では平年より多かった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況(8月4半旬)

地点	品種名	初発期		発病株率(%)		発病莖率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	7月16日	8月4日	40.0	39.2	8.9	6.9	10.0	10.2	10
北斗市	ななつぼし	7月25日	7月28日	64.0	35.2	36.8	22.3	27.0	14.9	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. ウンカ類 発生量 ヒメトビウンカ：やや少、セジロウンカ：少

ヒメトビウンカの予察灯による誘殺数は、長沼町で平年並、北斗市で平年よりやや多かった。予察田におけるすくい取り成虫数は、長沼町及び比布町で平年より少なく、北斗市では平年並だった。

セジロウンカの予察灯による誘殺数は、長沼町で平年よりやや多く、北斗市では平年より少なかった。予察田におけるすくい取り成虫数は、比布町及び北斗市で平年より少なかった。長沼町では捕獲が認められなかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査によると、全71地点のうち、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度(成虫：1,800頭、または幼虫：900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	249.8	0	64.8	0	27.3	27.5	99.3	0	9.3
2半旬	200	495.6	92	56.0	13	41.2	45.0	62.8	5.0	17.3
3半旬	606	1006.0	11	70.6	10	75.0	65.0	126.8	12.5	20.0
4半旬	1364	833.9	159	379.4	88	46.0	57.5	212.0	10.0	38.0
5半旬	794	476.2	855	251.7	28	92.1	55.0	275.3	52.5	61.3
6半旬	457	384.6	233	466.4	35	104.5	77.5	549.8	57.5	58.3
平年数	10		10		10		10		10	

セジロウンカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	6.3	0	94.4	0	7.8	0	2.0	0	12.8
2半旬	2	9.9	0	97.8	0	2.0	0	3.3	0	20.5
3半旬	0	21.0	0	89.0	0	3.0	0	3.8	0	23.0
4半旬	90	10.0	2	214.0	0	2.3	0	8.0	5.0	38.0
5半旬	2	3.3	50	55.3	0	1.0	2.5	5.3	30.0	66.8
6半旬	2	5.3	36	133.9	0	8.1	5	18.3	47.5	86.5
平年数	10		10		10		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の20回振り水田すくい取り虫数

普及 センター		地点数	8月3半旬		普及 センター		地点数	8月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	6	3.7	4.5	渡島	本所	1	0	0
	南東部	2	0	0	檜山	本所	2	0	0
	南西部	4	1.3	5.0		北部	2	0	4.8
	中空知	4	1.3	1.5	上川	本所	7	1.4	28.3
	北空知	6	19.5	44.5		富良野	3	0	0
石狩	本所	2	7.0	5.0		大雪	3	0	5.5
	北部	7	1.9	2.3	士別	2	5.5	0	
後志	本所	4	0	0	名寄	3	2.0	0	
胆振	東胆振	4	0.3	0	留萌	本所	5	0	0
日高	西部	2	0	7.5		南留萌	2	0	0

4. 斑点米カメムシ類 発生量 やや多 <8月3日付け注意報第3号>

予察灯による成虫誘殺数は、アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）は、長沼町で平年並、北斗市では平年よりやや多かった。アカスジカスミカメ（以下、アカスジ）は、北斗市で平年並であった。予察田におけるすくい取り虫数は、アカヒゲは、比布町で平年並、北斗市では平年より多かった。長沼町では捕獲が認められなかった。アカスジは、北斗市で平年並であった。予察田のフェロモントラップによるアカヒゲの誘殺数は、長沼町で平年並、比布町及び北斗市では平年よりやや多かった。

一般田における8月3半旬の巡回調査によると、全71地点のうち、水田すくい取りによる成幼虫の捕獲数が、発生モニタリングによる追加防除の基準である捕獲数1頭（「ななつぼし」）以上となったのは、石狩及び上川地方の計3地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	5	735.7	13	129.2	0	3.8	0	1.5	2.5	4.3
2半旬	270	482.6	239	55.7	0	6.5	0	0.6	0	2.0
3半旬	541	594.0	24	58.2	0	7.5	0	2.0	0	2.8
4半旬	678	283.5	138	141.8	0	3.4	2.5	3.5	2.5	2.3
5半旬	460	222.3	227	133.8	0	5.1	5.0	0.6	12.5	2.3
6半旬	157	137.7	89	83.6	0	3.0	7.5	5.3	15.0	1.0
平年数	10		10		10		10		10	

アカスジカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数		水田すくい取り数	
	北斗市		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	9	94.0	15.0	22.9
2半旬	123	22.7	17.5	17.9
3半旬	20	11.3	7.5	26.4
4半旬	30	82.3	7.5	18.1
5半旬	50	155.8	20.0	13.9
6半旬	31	108.3	27.5	6.8
平年数	7		8	

予察田におけるアカヒゲホソミドリカスミカメのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	4.9	10.4	2	8.0	7.0	16.2
2半旬	5.8	5.7	4	2.1	9.0	7.8
3半旬	9.8	9.5	4	3.3	7.0	5.4
4半旬	7.0	7.7	9	2.2	10.0	4.2
5半旬	5.3	4.9	11	5.5	22.5	6.7
6半旬	0.7	2.4	4	4.3	5.5	4.1
平年数	10		10		10	

巡回調査による斑点米カメムシ類成幼虫の20回振り水田すくい取り虫数

普及センター		地点数	8月3半旬		普及センター		地点数	8月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	6	0	0.2	渡島	本所	1	0	0
	南東部	2	0	0		本所	2	0	0
	南西部	4	0	0	檜山	本所	2	0	0
	中空知	4	0	0.3		北部	2	0	0
	北空知	6	0	0	上川	本所	7	0.1	0.4
石狩	本所	2	0	0		富良野	3	0	0
	北部	7	0.4	0.6		大雪	3	0	0
後志	本所	4	0	0.5		士別	2	0	0
胆振	東胆振	4	0	0.3		名寄	3	0	0
日高	西部	2	0	0.5	留萌	本所	5	0	0.3
						南留萌	2	0	1.0

5. フタオビコヤガ 発生量 少

フェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年よりやや多く、比布町及び北斗市では平年より少なかった。第2～3回幼虫による予察田の被害株率は、比布町で平年より低かった。

フタオビコヤガ成虫のフェロモントラップによる誘殺数および予察田における被害状況

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害株率(%)			
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	70.0	33.2	0	1.0	0	1.0	-	55.2	0	9.3
2半旬	75.2	29.5	0	0	0	0	-	59.0	4	13.1
3半旬	34.6	17.2	1.0	0.3	0	0.3	-	49.3	16	21.0
4半旬	22.5	11.5	1.0	1.0	0	1.0	-	42.0	4	40.5
5半旬	13.1	18.6	0	0.7	0	0.7	-	41.3	0	57.0
6半旬	11.4	31.3	0	0.3	1.0	0.3	-	20.0	0	59.0
平年数	3		3		3		6		10	

注) - : 他害虫被害により調査不能

B. とうもろこし

1. アワノメイガ 発生量 多

<6月16日付け注意報第1号>

北斗市におけるフェロモントラップによる誘殺数は平年より多かった。

アワノメイガ成虫のフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	北斗市	
	本年	平年
8月1半旬	8	4.7
2半旬	2	9.3
3半旬	8	13.5
4半旬	30	16.4
5半旬	107	23.2
6半旬	64	18.9

注) 平年数は10年

2. オオタバコガ 発生量 多

<6月22日付け注意報第2号>

フェロモントラップによる誘殺数は、長沼町及び比布町で平年より多く、北斗市及び訓子府町では平年並だった。芽室町では誘殺が認められなかった。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	14	4.2	3	3.5	0	1.0	0	0	4	3.2
2半旬	1	1.6	19	2.2	0	0.8	0	0	1	0.9
3半旬	0	0.7	0	2.5	5	1.1	0	0	0	1.6
4半旬	1	1.2	0	1.1	1	2.0	0	0	0	0.1
5半旬	0	1.8	1	0.4	2.5	3.4	0	0	0	2.7
6半旬	0	1.1	2	2.2	2.5	10.1	0	0	0	0.8
平年数	10		10		10		9		9	

C. 豆類

1. わい化病(大豆) 発生量 やや少

予察ほにおけるわい化病の発生量は、長沼町で平年より少なく、訓子府町では平年並であった。

予察ほにおける大豆のわい化病の発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		平年数
		本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	9.0	23.9	10
訓子府町	とよまどか	7.0	7.3	4

2. 菌核病（菜豆） 発生量 多

芽室町の予察ほにおける菌核病の発生量は、平年より多かった。

予察ほにおける菜豆の菌核病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	12.0	6.0	22.5	8.9	15.5	8.3	10

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生量 やや多

灰色かび病の発生量は、長沼町の予察ほ（小豆）及び芽室町の予察ほ（菜豆）で平年よりやや多かった。
一般ほにおける8月3半旬の巡回調査では、上川、オホーツク及び十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおける小豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	1.5	1.8	7.5	4.3	6.5	5.4	10

予察ほにおける菜豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	23.0	8.4	19.0	12.5	12.0	10.5	10

一般ほにおける小豆の灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			8月3半旬					8月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	0	0
後志	本所	2	0	0	網走	本所	2	0.5	1.5
胆振	本所	2	0	0		網走	2	0.5	1.0
	東胆振	2	0	6.0		美幌	3	0	0
檜山	本所	2	0	0	十勝	本所	4	0	1.4
	北部	1	0	0		東部	8	1.8	0.5
上川	大雪	2	0.5	0.5		東北部	2	0	0
	士別	2	0	0		北部	3	0	18.3
						西部	2	0	1.0
						南部	7	0.7	0

4. マメシンクイガ 発生期 やや早 発生量 やや多

フェロモントラップによる成虫の初誘殺日は、訓子府町で平年より早く、長沼町、比布町及び芽室町で平年よりやや早く、北斗市では平年より遅かった。誘殺数は、芽室町及び訓子府町で平年より多く、北斗市で平年よりやや多く、長沼町で平年並、比布町では平年より少なかった。

マメシクイガのフェロモントラップによる誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	18	21.4	6	23.3	0	1.4	40	14.2	6	3.9
2半旬	22	25.1	4	15.1	1	8.4	69	10.3	4	9.6
3半旬	30	23.8	9	9.2	6	5.8	14	10.1	3	10.2
4半旬	6	15.1	3	5.3	24	11.2	16	13.7	71	8.2
5半旬	5	8.5	1	1.4	15	10.1	16	6.0	5	4.6
6半旬	3	5.1	3	0	5	8.5	4	1.7	4	4.6
初誘殺日	7月13日	7月17日	7月10日	7月13日	8月10日	8月3日	7月20日	7月25日	7月24日	7月31日
平年数	10		10		10		10		10	

5. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほの大豆の食害程度は長沼町で平年よりやや高く、訓子府町では平年並だった。小豆の食害程度は、長沼町で平年より低く、訓子府町では平年並だった。

予察ほにおける大豆および小豆の食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	28	32.0	25	27.3	6	16.6	23	14.3
2半旬	35	34.6	28	29.2	8	18.2	24	16.8
3半旬	52	37.9	29	32.5	10	20.4	24	19.3
4半旬	52	40.2	29	35.3	10	22.7	24	21.0
5半旬	52	41.2	31	37.1	10	25.0	25	22.5
6半旬	52	41.7	34	39.2	10	26.2	28	23.8
平年数	10		10		10		10	

D. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 やや少

予察ほにおける疫病の発生量は、長沼町で平年より多く、芽室町で平年より少なく、訓子府町で平年よりやや少なかった。北斗市では発生は認められなかった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度								平年数
		8月1半旬		8月2半旬		8月3半旬		8月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	とうや	－	45.3	－	56.7	－	64.6	－	64.6	10
	スノーマーチ	16.5	32.4	35.5	40.3	88.5	50.1	100	55.1	10
北斗市	とうや	－	63.8	－	64.8	－	64.8	－	－	10
芽室町	とうや	－	51.6	－	57.6	－	64.8	－	64.8	10
	スノーマーチ	0	53.7	0	58.6	0	69.4	0	82.8	10
訓子府町	とうや	0	52.8	－	59.2	－	61.4	－	61.4	10
	スノーマーチ	0	45.1	1.0	60.7	8	66.5	23.0	66.3	10

注)－: 他病害による影響、茎葉の黄化、枯凋により調査不能

注)8月5半旬は枯凋により調査不能

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、芽室町で平年より少なかった。長沼町及び訓子府町では発生が認められなかった。ワタアブラムシの発生量は、いずれの地点も平年より少なかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点も発生が認められなかった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	0.5	1.6	0	0.5	0.5	1.6	0	1.1	0.8	11.8
2半旬	0	0	0	0.4	0	0.3	0	0.4	0	0	2.4	9.2
3半旬	0	0	0	0.3	0	0.1	0	0.3	1.0	0.6	0	15.8
4半旬	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	1.2	3.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 品種は「スノーマーチ」

注2) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。

E. てんさい

1. 褐斑病 発生量 並

予察ほにおける発生量は、長沼町及び芽室町で平年並、訓子府町では平年よりやや多かった。

一般ほにおける巡回調査の結果では、全道的に発生が認められ、調査ほ場全 71 地点のうち 8 月 6 半旬時点で発病株率が 50%を超えたほ場は 8 地点、100%であったほ場は 1 地点であった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(やや強)	22.0	21.7	34.0	37.2	54.8	54.2	10
	カーベ2K314(強)	24.0	－	32.4	－	52.8	－	－
芽室町	ライエン(やや強)	25.2	25.1	37.2	39.2	55.2	51.3	10
	あまいぶき(弱)	31.2	32.4	44.8	46.3	60.8	61.0	10
	スタウト(強)	23.2	24.8	31.2	37.9	47.2	49.0	10
訓子府町	ライエン(やや強)	25.6	16.9	41.2	29.4	57.6	45.2	10
	カーベ2K314(強)	26.0	－	42.8	－	59.2	－	－

注) —: 平年値なし

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			8月3半旬		8月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	9.0	6.0	15.0
石狩	本所	3	6.7	2.3	5.0	24.3
後志	本所	3	0.0	0.0	5.0	3.3
胆振	本所	4	28.5	4.0	32.3	40.5
	東胆振	2	0	36.3	0	40.0
上川	富良野	2	0	4.5	3.0	6.5
	大雪	2	0.5	1.0	0.5	2.5
	士別	2	1.0	8.0	0.5	13.0
	名寄	1	3.0	10.0	6.0	28.0
網走	本所	9	10.8	30.9	27.1	45.6
	清里	4	3.5	30.3	12.0	51.5
	網走	2	4.0	8.5	12.0	55.0
	美幌	6	34.5	4.8	50.8	24.8
	遠軽	4	2.0	11.8	1.3	31.8
十勝	本所	5	1.6	9.2	5.8	37.8
	東部	6	6.0	40.8	30.3	67.3
	東北部	2	5.5	22.0	8.0	31.0
	北部	3	13.3	15.0	18.0	58.7
	西部	3	13.3	15.7	21.0	26.7
	南部	7	2.6	3.6	2.6	23.7

2. ヨトウガ（第2回） 発生期 並 発生量 並

フェロモントラップによる第2回成虫の初誘殺日は、長沼町で平年より早く、北斗市で平年よりやや早く、芽室町で平年並、比布町及び訓子府町では平年より遅かった。誘殺数は、芽室町で平年並、他の地点では平年より少なかった。予察ほにおける産卵初発期は、長沼町で平年より早く、芽室町では平年より遅かった。訓子府町では産卵が認められなかった。食害程度は、いずれの地点も平年並だった。

一般ほにおける8月6半旬の巡回調査によると、全71地点のうち、防除の基準となる被害株率50%以上となった地点は認められなかった。

ヨトウガ成虫のフェロモントラップによる誘殺数と第2回初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	1.4	0	5.4	0	1.7	3	4.5	0	1.4
2半旬	1.5	2.4	2	6.0	1	3.1	2	5.0	0	1.2
3半旬	0.5	3.6	0	4.2	0	4.9	2	0.6	0	1.6
4半旬	0	1.7	0	2.3	0	1.9	7	0.6	1	0.8
5半旬	0	0.7	0	0.5	0	2.7	1	0.5	0	0.6
6半旬	0	0.8	0	2.2	3	3.2	2	0.1	1	1.4
初誘殺日	7月23日	8月5日	8月9日	7月29日	7月25日	7月29日	8月5日	8月4日	8月18日	8月10日
平年数	10		10		10		10		10	

予察ほにおけるヨトウガの産卵および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	0.8	0	0	0	0	47.0	58.9	35.5	34.5	35.0	20.4
2半旬	1	1.1	0	0.3	0	0.5	50.0	57.3	38.5	35.4	35.0	23.0
3半旬	0	2.2	0	0.6	0	0.9	50.0	59.5	40.0	36.1	36.0	25.2
4半旬	0	1.5	0	0.7	0	0.1	50.0	62.1	39.0	38.5	36.0	28.8
5半旬	0	1.5	0	0.8	0	0.6	59.0	62.7	40.0	38.4	37.0	30.4
6半旬	0	0.6	0	0.2	0	0.3	71.0	67.2	43.5	41.9	37.0	34.2
初発期	7.V	8.I	8.VI	8.III	-	8.II						
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) ーは未確認。

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター		地点数	8月6半旬	
			本年	前年
空知	南東部	1	6.0	5.0
石狩	本所	3	1.7	46.0
後志	本所	3	5.7	0.7
胆振	本所	4	8.5	17.5
	東胆振	2	0	84.0
上川	富良野	2	0	16.5
	大雪	2	0	2.0
	士別	2	18.0	96.5
	名寄	1	0	100.0

普及センター		地点数	8月6半旬	
			本年	前年
網走	本所	9	5.7	19.1
	清里	4	2.8	29.3
	網走	2	0	47.0
	美幌	6	4.0	15.8
	遠軽	4	3.8	38.0
十勝	本所	5	2.4	9.4
	東部	6	3.3	3.8
	東北部	2	2.0	19.0
	北部	3	1.0	23.7
	西部	3	9.0	29.0
	南部	7	0.1	12.6

F. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年よりやや少なく、北斗市では平年より少なかった。
一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、全3地点中モンシロチョウが優占した地点はなかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	2.0	-	41.6
2半旬	2	6.1	-	91.3
3半旬	5	10.2	-	84.9
4半旬	1	7.9	2	51.4
5半旬	7	3.9	3	20.3
6半旬	5	5.2	0	16.9
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの寄生虫数。

注2) -は欠測。

2. コナガ 発生量 少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、訓子府町で平年よりやや少なく、長沼町、比布町、北斗市及び芽室町では平年より少なかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なかった。北斗市では寄生が認められなかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、全3地点のうち、後志及び上川地方の2地点でコナガが優占種であった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	17	33.7	0	5.3	8	42.2	0	4.1	1	2.3
2半旬	5	25.7	1	2.5	1	27.1	0	2.9	1	1.2
3半旬	20	26.2	0	3.7	3	14.0	1	1.8	0	1.4
4半旬	22	26.8	0	1.9	5	22.0	1	1.3	1	1.2
5半旬	14	26.5	0	1.4	2	11.4	0	0.8	0	1.6
6半旬	2	19.9	1	0.4	0	5.9	0	0.9	0	0.9
平年数	10		10		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草地。

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	-	41.7
2半旬	0	3.8	-	60.0
3半旬	0	8.9	-	30.8
4半旬	0	10.2	0	8.7
5半旬	3	7.2	0	5.6
6半旬	5	6.3	0	5.0
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの寄生虫数。

注2) -は欠測。

3. ヨトウガ (第2回) 発生量 少

長沼町及び北斗市の予察ほのキャベツでは産卵が認められなかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査において、全3地点中ヨトウガが優占した地点はなかった。

G. りんご

1. 黒星病 発生量 やや少

予察園における発生量は、長沼町（無防除）の「相伝ふじ」では平年よりやや少なかった。余市町の予察園（慣行防除）の「昂林」では発生が認められていない。

巡回調査では、発生は認められていない。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	相伝ふじ	67.8	88.4	38.7	56.4	9
余市町(慣行防除)	昂林	0.0	-	-	-	-

注) - : 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

予察園における発生量は、長沼町（無防除）の「王林」では平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）の「昂林」では発生が認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島地方で発生が認められている。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	3.7	3.8	0.1	0.1	10
	王林(徒長枝)	7.0	4.7	0.1	0.1	10
余市町(慣行防除)	昂林(徒長枝)	0.0	—	—	—	—

注) —: 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0.3
渡島	本所	1	49.8	34.8
留萌	南留萌	1	0	0

3. ハマキムシ類（第2回） 発生期 やや早 発生量 やや少

予察園のフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ（第2回）の初発期は、長沼町（無防除）で8月6日（平年：8月17日）と平年より早く、余市町B（慣行防除）では8月11日（平年：8月11日）と平年並だった。余市町A（慣行防除）では誘殺が認められなかった。誘殺数は、長沼町及び余市町Bで平年よりやや少なかった。リンゴモンハマキ（第2回）の初発期は、長沼町で8月14日（平年：8月14日）と平年並だった。余市町A及びBでは誘殺が認められなかった。誘殺数は、長沼町で平年より少なかった。

幼虫による新梢被害は、長沼町で4.0%（平年：3.3%）と平年並であった。

一般園における両種のフェロモントラップ誘殺数は、札幌市及び石狩市で平年並だった。牡警町では誘殺が認められなかった。

予察園におけるハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.5	0	0.4	0	0.9	0	1.3	0	0	0	0
2半旬	1.0	1.0	0	1.4	0.8	2.2	0	7.8	0	0	0	0
3半旬	0.7	1.1	0	1.3	0.9	0.9	0.7	4.0	0	0	0	0.1
4半旬	0.3	0.6	0	0.6	0.3	0.7	2.3	1.5	0	0	0	0.1
5半旬	0	0.3	0	0.5	0	0.4	0	2.7	0	0	0	0.0
6半旬	0	0.3	0	0.7	0	0.4	2.0	3.6	0	0	0	0.1
平年数	10		10		10		6		6		6	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1.0	0.8	0.8	0.1	0	0.1
2半旬	5.0	0.7	0	0.1	0	0.3
3半旬	1.6	1.5	0	0.7	0	0.2
4半旬	1.3	2.5	0	0.3	0	0.1
5半旬	2.1	2.5	0	0.4	0	0.1
6半旬	0	2.2	0	0.6	0	0.4
平年数	10		10		10	

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.2	0	0	0	0.1
2半旬	0	0.3	0.2	0.2	0	0.4
3半旬	0	0.5	1.0	0.3	0	0.5
4半旬	0.6	1.0	0.8	0.2	0	0.7
5半旬	1.4	2.3	0	0.6	0	1.1
6半旬	6.9	3.0	0.8	0.5	0	1.9
平年数	6		6		6	

4. モモシンクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町（無防除）で平年より少なく、余市町A及びB（いずれも慣行防除）では平年並であった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は札幌市で平年よりやや少なく、壮瞥町で平年並であった。

予察園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	16.8	110.3	12.7	31.7	29.2	46.0
2半旬	51.5	89.2	20.0	24.4	21.7	40.8
3半旬	22.5	41.5	14.7	18.1	18.3	46.1
4半旬	21.0	53.3	17.8	14.7	27.0	41.3
5半旬	17.0	50.7	16.8	9.7	36.8	35.3
6半旬	29.0	60.5	1.5	11.3	63.0	41.9
平年数	10		10		10	

注）産卵数は100果調査。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		壮瞥町	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	5.1	28.9	2.1	10.8
2半旬	5.7	29.4	10.0	12.3
3半旬	23.4	30.5	14.7	11.1
4半旬	26.7	32.6	19.2	11.4
5半旬	25.0	24.3	14.3	11.5
6半旬	18.9	24.9	14.4	15.1
平年数	10		10	

5. ハダニ類 発生量 少

予察園において、リンゴハダニ及びナミハダニは長沼町（無防除）、余市町A及びB（いずれも慣行防除）で発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	6.8
2半旬	0	0	0	0	0	0.6	0	0	0	5.7	0	1.1
3半旬	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	1.0	0	7.9
4半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0	19.4
5半旬	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	3.8	0	0.4
6半旬	0	0	0	0	0	0.2	0	1.6	0	0.6	0	9.0
平年数	5		10		10		5		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 30葉あたりの寄生虫数。

6. キンモンホソガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は長沼町（無防除）で平年より多く、余市町A（慣行防除）で平年より少なく、余市町B（慣行防除）では平年並だった。長沼町の予察園における被害葉率は、平年よりやや高かった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、石狩市及び壮瞥町で平年より少なかった。札幌市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	24.0	16.6	2.2	64.6	38.6	177.7	0.2	0.2
2半旬	13.0	21.6	1.3	50.7	129.6	99.7	0.5	0.3
3半旬	7.7	12.0	2.3	55.2	78.4	80.2	1.3	0.5
4半旬	0.3	17.1	1.4	54.3	72.7	44.6	1.5	1.0
5半旬	132.0	25.9	0.8	37.9	83.5	47.8	2.1	1.4
6半旬	177.0	58.1	1.5	45.8	103.5	64.0	3.3	1.8
平年数	10		10		10		5	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.9	0	8.8	0	79.2
2半旬	0	1.0	0	14.7	4.2	62.1
3半旬	0	1.4	0	18.6	9.5	47.4
4半旬	0	1.2	0.2	13.0	15.5	61.6
5半旬	0	1.7	1.1	28.8	10.7	45.4
6半旬	0	1.6	1.7	29.1	24.9	24.4
平年数	10		10		10	

翌年の病虫害の発生を抑制するため、収穫残さ等を適正に処理しましょう！

・ **水稻のいもち病**

水稻いもち病の第一次伝染源は、保菌種子と前年の被害わらや粃殻で、これらは本田における葉いもちの早期多発の原因となります。そのため、本田の被害わらは圃場外に搬出し、堆肥化するなど完全に処理しましょう。育苗ハウス内及びその周辺の粃殻は放置せず、衛生管理を徹底しましょう。

・ **施設内のモモアカアブラムシ等越冬害虫**

平成 27 年に実施した冬期間のビニールハウス内での発生調査において、収穫残さや床土、使用予定の育苗用土に生じた雑草などに、モモアカアブラムシの発生が認められました。施設内で越冬しているモモアカアブラムシは、春以降ほ場に飛来し、てん菜の黄化病（旧：西部萎黄病）の病原ウイルスの媒介に関与していることが示唆されています。このほかにもアシグロハモグリバエ、ミカンキイロアザミウマなど、露地では越冬することの出来ない害虫は、施設内で越冬しています。そのため、冬期間には、施設内の葉菜類などの収穫残さ、雑草などを適正に処分しましょう。

・ **アスパラガスのツマグロアオカスミカメ**

ツマグロアオカスミカメは、アスパラガスの出芽期に、収穫する若茎にすじ状の傷や曲りを生じさせたり、茎の先端を壊死させたりすることで商品価値を損ねます。本種はアスパラガスの茎葉部に産み付けられた卵で越冬します。越冬した卵からふ化した幼虫が春季に被害を及ぼすことから、本種の被害への対策として、秋季の茎葉黄変後に茎葉をほ場外に搬出することが効果的です。

農薬の適切な保管管理と 空容器の適正な処分に努めましょう!!

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなってきましたが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- ① 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管する。
- ② 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管する。
特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分する。
- ③ 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示が定められているので、これを遵守する。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを遵守する。
- ④ 農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わない。
- ⑤ 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わない。
農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正に処分する。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう除去する。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課(TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所(TEL:0123-89-2080)

または最寄りの(総合)振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)
をご覧ください。